



# 静岡県新文化施設 (旧ヴァンジ彫刻庭園美術館) 利活用基本計画 (概要版)

## 概要

令和6年2月に県に譲渡された、旧ヴァンジ彫刻庭園美術館について、東部・伊豆地域の文化拠点の1つとなる県の新たな文化施設として、効果的な利活用が図られるよう、基本方針を定める。

なお、本計画は、「クレマチスの丘広域的活用構想」（R5.6策定）をベースに、外部有識者への意見聴取及びサウンディング型市場調査など、様々な分野の民間事業者や関係者等へのヒアリングを通じて、新文化施設の導入機能、ゾーニング及び事業スキーム等について策定するものである。

## 目的

東部・伊豆地域が有する文化の力と、文学や食文化、産業などの特色ある地域資源を融合して発信することで、文化振興を図るとともに、観光・交流の拡大や地域経済の活性化も図る場を形成する。

## 施設コンセプト

新文化施設の目的や対象地の現状・課題の分析等を踏まえ、有識者委員会により、コンセプトを構成する要素として5つの意見があり、新文化施設の特性を活かしたコンセプトを策定

### 感性の花ひらく癒やしの丘 ～文化でつながる、はぐくむ オープンラボ～



多くの人々が来訪し、体験や創造を通して、**誰もが自分らしさを表現する場**



庭園を活用した、**くつろぎと癒やしの場**



地域課題に対する「**文化的処方**」実践の場



東部・伊豆地域を文化で繋げ、**新たなイノベーションの輪が広がる場**



文化を通じた「**多文化共生**」の実現の場

## 求める機能

機能	内容
アートを楽しむ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アートの展示・鑑賞</li> <li>・クリエイティブな活動への参加</li> <li>・来館者が体験・創造する</li> </ul>
多様な文化に触れる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・飲食（静岡らしい食の体験）</li> <li>・地元物産や伝統工芸品の販売</li> <li>・民俗行事・文化体験</li> <li>・自然を活かしたアクティビティ、学びのプログラム</li> </ul>
癒す・養う	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族連れや子どもたちの学び・発見のプログラム</li> <li>・アートを学びたい人に魅力的なプログラム</li> <li>・企業の研修や大学の学習プログラム</li> </ul>
つながる・発信する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域に愛着を持つきっかけになる体験</li> <li>・生活の一部に溶け込むような普段使いの施設</li> <li>・休みの日にわざわざ足を延ばして行きたいと思える施設</li> <li>・県ゆかりのアーティストの発表、情報発信</li> </ul>

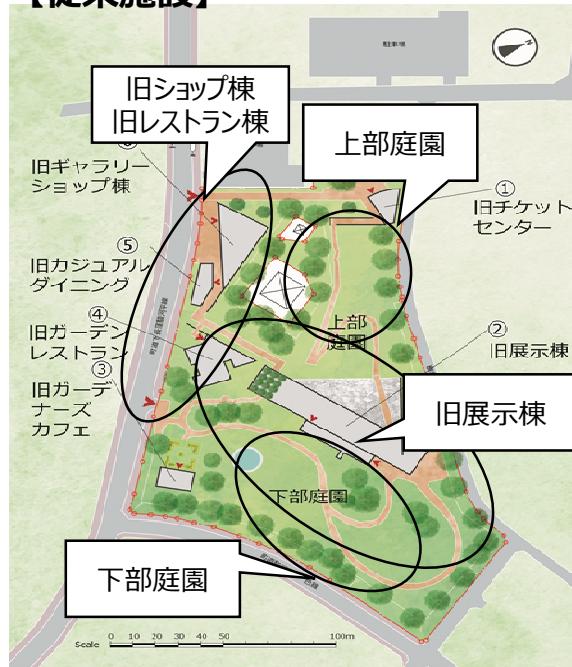
### （参考）サウンディング型市場調査での主な意見

区分	内容
施設機能	・アート展示、飲食、物販の既存の建物の機能を踏襲した活用が望ましい（大規模な改修はリスクが高い）
運営手法	・公設民営方式での運営（コンセッションや指定管理など）を希望（施設全体の貸付等による完全独立採算事業での運営は困難）
事業条件	・建物、庭園の維持管理に相当な負担がかかるため、県の費用負担が必要 ・大規模修繕や広報、地域連携などのソフト面について県のサポートを求める
文化ネットワークとの連携	・文化振興に資する施設のため、連携は必要 ・連携方法としては、施設運営者と事務局間の施設内での連携（事務局のみを施設内に設置、文化イベントの実施など）が可能
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・駐車場の確保</li> <li>・彫刻の取り扱い</li> </ul>

## 想定されるゾーニング

サウンディング結果や有識者等意見を踏まえ、旧ショップ棟、旧レストラン棟、旧展示棟等既存の建物及び庭園の機能を踏襲し、3つのゾーンとして想定

### 【従来施設】



従来の建物と庭園の機能を踏襲

### 【ゾーニングイメージ】



### 【3つのゾーン】

ゾーン	概要
マーケット・フードゾーン	<ul style="list-style-type: none"> <li>旧ショップ棟や旧レストラン棟を活用する</li> <li>静岡の食文化や産業などの魅力を体験・発信する飲食や物販を行うゾーン</li> </ul>
アート・カルチャーゾーン	<ul style="list-style-type: none"> <li>旧展示棟を活用する</li> <li>創作活動や発表を行う文化体験を楽しめるとともに、様々な地域文化の体験・学びの機会を提供するゾーン</li> </ul>
ガーデン・パークゾーン	<ul style="list-style-type: none"> <li>上部・下部庭園を活用する</li> <li>心身ともに健康へ寄与する場所として、開放的で人が集まる癒やしを提供し、アート創造の屋外空間での展開も想定するゾーン</li> </ul>

## 「求める機能」と「想定されるゾーニング」を踏まえた利活用イメージ

ゾーニング機能	マーケット・フードゾーン	アート・カルチャーゾーン	ガーデン・パークゾーン
アートを楽しむ	<ul style="list-style-type: none"> <li>アニメ・マンガやプラモデル・楽器等の地元物産や伝統工芸品等の販売</li> <li>来館者が体験・創造する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アニメ・マンガ等ポップカルチャーの企画展</li> <li>クリエイティブな活動への参加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自然を活用したワークショップ</li> <li>マルシェイベント</li> </ul>
多様な文化に触れる	<ul style="list-style-type: none"> <li>静岡らしい食の体験を提供するレストラン</li> <li>アニメ・マンガやプラモデル・楽器等の地元物産や伝統工芸品等の販売</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アニメ・マンガ等ポップカルチャーの企画展</li> <li>プラモデル・楽器等の静岡の誇る産業の体験施設</li> <li>地域伝統芸能や無形文化財等の普及・発信に寄与する多文化交流</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域伝統芸能や無形文化財等の普及・発信に寄与する多文化交流</li> <li>自然を活用したワークショップ</li> </ul>
癒す・養う	<ul style="list-style-type: none"> <li>静岡らしい食の体験を提供するレストラン</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>企業の研修や大学の学習プログラム</li> <li>家族連れや子どもたちの学び・発見のプログラム</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>家族連れ向けの体験プログラムやイベント</li> <li>アウトドアアクティビティ（キャンプサイト等）</li> <li>リラクゼーションスペース</li> </ul>
つながる・発信する	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域食材や食文化の普及・発信に寄与する多文化交流</li> <li>地域の特産品を使った商品やメニュー開発</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>家族連れ向けの体験プログラム</li> <li>地域伝統芸能や無形文化財等の普及・発信に寄与する多文化交流</li> <li>県ゆかりのアーティストの発表、情報発信</li> <li>県民自らのアート表現</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>家族連れ向けの体験プログラム</li> <li>地域伝統芸能や無形文化財等の普及・発信に寄与する多文化交流</li> <li>県ゆかりのアーティストの発表、情報発信</li> <li>県民自らのアート表現</li> </ul>

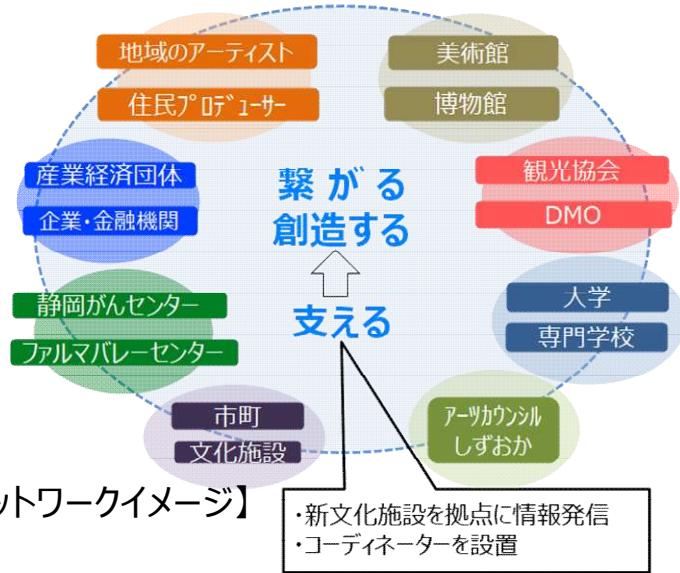
## 富士山・伊豆・駿河湾ネットワーク（仮称）との連携

県は関係機関の連携し、東部・伊豆の特色ある地域資源を活用した文化活動を促進するとともに、文化の力で地域課題解決に向けた取組を進めるため、民官連携の「富士山・伊豆・駿河湾ネットワーク(仮称)（以降ネットワーク）」を形成し、新文化施設に事務局を設置することで、文化拠点施設として活用する予定

ネットワークは、行政だけではなく、地域住民や民間企業、地域の団体など様々な連携主体によって構成され、各構成員の取組について、一元的な情報発信をすることに加え、地域の取組に関する相談など、総合的なワンストップ窓口となるとともに、ネットワークの旗振り役としてコーディネーターを設置し、各構成員が行う「繋がる」「創造する」取組について、「支える」取組を行う。

【ネットワークの取組例】

区分	内容
繋がる	<b>【交流・相談キャラバン】</b> まちづくりや福祉等の多種多様な分野の構成員による、情報交換等のコミュニティの形成 <b>【構成員の連携促進】</b> 各地域の構成員における面的な連携の促進 （例）・美術館などとの連携による新たな企画展の造成や魅力の発信などの周遊性促進 ・県内ゆかりのアーティストの発表に加え、県民参画型アートイベントの開催 など
創造する	<b>【アートによるクリエイティブイノベーション】</b> 地域活性化や課題解決に向け、文化を活用した、健康、福祉、産業×アート等のモデル事業の実施 （例）・音楽や演劇などの文化芸術とコラボレーションしたマルシェ ・アート思考を活用した企業や学生向けの研修・学習プログラムの開発 など



## 運営手法

完全独立採算事業としての運営は困難であるとのサウンディング結果を踏まえ、公設民営方式のうち、民間の経営ノウハウや資金を最大限活用可能と考えられるサービス購入型や混合型等のコンセッション方式（PFI）を導入して、事業者選定を進める。

【一般的な各種法の概要】

区分	コンセッション(PFI)	指定管理	貸付
内容	・県が施設を保有し、民間が管理運営を実施	・協定を締結し民間が施設の利用許可権をもつ ・利用料金の採用は可能	・県有地・県有施設を民間に貸付け ・貸付条件は個別協議
収支	収入	なし	借地料等
	支出	運営費、維持管理費等	なし
考え方	収益性	高	低
	考え方	収益事業の自由度が高い (民間の創意工夫を最大限反映)	収益事業の自由度が低い

また、民間の提案事業を試験的に実施する「トライアルサウンディング」により、事業者選定における条件設定などを詳細に反映させることができ、事業の実現可能性を広げる。

## 想定スケジュール

令和7年度以降、公募資料等作成に着手するとともに、ネットワークにおいて検討を進める利活用モデル事業との連携を図り、並行して進めながら、令和8年度以降の開館を目指す。現状課題である駐車場、彫刻の取り扱い等も整理を行っていくとともに、トライアルサウンディングの実施などにより、継続的に民間事業者との対話を行いながら、公募に繋げていく。

